

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈中・家庭〉

特別研修員 家庭 蓼沼 佐弥香（中学校教諭）

題材名 『衣生活と自立』（第1学年） 全10時間計画

題材のねらい

快適な衣生活について考え、衣服の選択や手入れなど実践的・体験的な活動を通して、衣服の選択、着用及び手入れに関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、衣服の計画的な活用について工夫し、自立した衣生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

題材構想の意図

本題材では、課題をもって衣服の適切な選択や着用、計画的な活用、手入れに関する知識及び技能を身に付けさせていきます。つかむ過程では、生活の中から自分たちの問題を見いだして学習課題を立てる活動を行い、主体的な学びにつながります。追究する過程では、対話的な学びを促すために、互いの意見や気づきを共有したりよりよい解決方法について検討したりする活動を充実させ、知識及び技能の習得につながります。まとめる過程では、実践発表・評価を行い、改善策・新たな課題に気付けるようにし、学びが深まるように構成しました。

過程	主な学習活動	学ぶ必要感をもたせる
つかむ (2)	<p>1. 題材を貫く課題を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣生活に関わる活動サイクルについて知り、自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。 ○課題を解決するために必要な知識及び技能は何かを検討し、学習計画を立てる。 <p>計画的な購入・自分らしい快適な着用・正しい手入れ・再利用ができるようになろう。</p>	<p>事前アンケートの結果を提示したり、自分の衣生活を振り返らせたりすることで、衣生活の学習を始める以前の自分が「できない・知らない」ことについて意識を向けさせ、これからの学習への興味を引き出す。</p> <p>解決すべき課題を明確にさせる</p> <p>日常生活から問題を見いださせ、自分たちが目指す「自立した衣生活」を具体化した「題材を貫く課題」を設定させる。</p> <p>課題解決の見通しをもたせる</p> <p>学習課題を解決するために、どのようなことを学習すればよいかを検討させ、題材を通した学習計画を自分たちで立てさせることで、主体的な学びにつなげる。</p>
追究する (7)	<p>2. 衣服の適切な選択や着用、計画的な活用、手入れに関する知識及び技能を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数グループで、衣服の社会生活上の働きや個性を生かした着用について考える。 ○衣服の過不足や処分について考え、衣服の計画的な活用の必要性について話し合う。 ○身近な既製服を観察して、既製服を選択する際のポイントについて話し合う。 ○洗濯機による洗濯、干す、アイロン、たたむ等の手順について理解し、手入れについての実習を行う。 <p>3. 課題解決に向けた実践計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した知識及び技能を活用して、自分や家族の課題を解決するための「家庭での実践計画」を立てる。 ○グループごとにアドバイスをし合ったり、「健康・快適」の視点から見直したりして、よりよい実践計画にする。 	<p>課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせる</p> <p>実感を伴って理解することができるように、実践的・体験的な活動を設定する。衣服の見た目や手触り、厚みなど、見たり触れたりして気付くことにも注目させる。</p> <p>各自の気づきを全体で共有させ、課題解決のために必要な知識及び技能を一般化してまとめ、日常生活でも活用できることに気付かせる。</p> <p>習得した知識及び技能を活用させる</p> <p>学習で得た知識及び技能を活用させるために、自分や家族の衣生活を改善するための実践を具体的に考えさせ、家庭での実践計画を立てさせる。</p> <p>よりよい解決方法を考えさせる</p> <p>健康・快適な衣生活を送るための実践となっているかについて着目することができるように、互いの実践についてアドバイスし合い、実践計画を再検討させる。</p>
まとめる (1)	<p>4. 身に付けた知識及び技能を実感し、題材の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での実践を報告し合い、改善策や新たな課題について意見交換をする。 ○学習で身に付けた知識及び技能を振り返り、これからの衣生活で生かしたいことや実践したい行動について考える。 	<p>改善策や新たな課題に気付かせる</p> <p>家庭での実践を振り返らせ、改善できること、更に知りたいことなどについて気付くことができるように、既習のワークシートを活用させながら自己評価をしたり意見交換をしたりする場を充実させる。</p> <p>学びや変容を自覚させ、実践的な態度を養う</p> <p>衣生活の学習を始める以前の自分が「できない・知らない」と感じていたことについて振り返らせ、学習後の自分が何を学ぶことができたのか気付かせる。また、学習で身に付けた力をどう生かすか具体的に考えさせる。</p>

アンケート結果
自立している 4人
自立していない 8人
どちらともいえない 18人
〈自分は自立した衣生活を送っているか?〉



〈既製服の取扱い表示を調べる〉



〈家庭での実践を報告し合う〉

指導のポイント

指導例：『衣生活と自立』（第1学年 第1時）

1 本時のめあてをつかむ。

○事前アンケートの結果や、普段の衣生活の振り返りから、学習への興味をもつ。

T：今着ている服が汚れたら、誰がどうやってきれいにしますか？

S：親が洗濯機で洗っています。自分ではしていません。

T：事前アンケートでは、多くの人が「自分は自立した衣生活を送っていない」と答えていますね。自立した衣生活を送る人って、どんな人でしょう。

S：自分で服を洗濯したり、干したりできる人です。

S：自分で好きな服を選んで着られる人だと思います。

めあて 自分や家族の衣生活について考え、学習課題を立てよう。

2 日常生活の中から問題を見いだす。

○衣生活に関わるキーワードを基に、衣生活の活動のサイクルについて確認する。

「計画」「入手」「着用」「手入れ」「再利用・処分」

○自分が知らないことやできないことについて考える。

T：「自立した衣生活」のために必要な知識や技能の中で、今の自分が知らないこと、行っていないこと、できないことは何ですか。

S：自分で自分の服を選んで買っていません。親が選んだ服を着ています。

S：ボタンが取れた服は捨てています。手入れの仕方が分からないからです。

S：季節に合った服の着方が分かりません。

○互いの意見を整理・分類する。

S：自分は何ができていないかが分かりました。

S：再利用も衣生活の一部だと気がきました。



3 自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。

○「学習を終えた時に、どんな自分になっていたいか」について考える。

S：部活動で汚れた服を自分できれいに洗濯ができるようになりたいです。

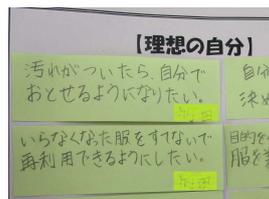
S：いらなくなった服を捨てないで再利用できるようにしたいです。

S：季節に合った服を自分で選べるようになりたいです。

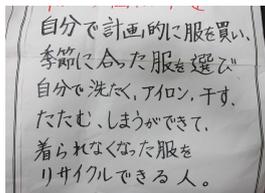
S：しみをきれいにできたり、正しいアイロンがけができたりする自分になりたいです。

○自分たちが目指す「自立した衣生活」を具体化し、題材を貫く課題とする。

T：「こんな衣生活を送れる人になりたい」をみんなで考えて、自分たちの学習課題にしよう。



<学習後の理想の自分>



<題材を貫く学習課題>

4 本時の振り返りをする。

○題材を貫く課題を確認し、次時は学習計画を立てることを知る。

S：自分ができないことや知らないことがたくさんあることに気がきました。自分の服を自分で選ぶ方法を知りたいです。

S：自分は自立した衣生活を送っていません。これからの学習で、自分でできることをもっと増やしていきたいです。

本時のめあてにせまるために
日常の衣生活を振り返らせる

○自分たちが普段着用している衣服などから、日常で行っている衣生活に関わる活動について意識を向けさせ、これからの学習への興味を引き出す。

学ぶ必要感をもたせるために
各自で問題を見いださせる

○日常生活を振り返らせ、うまくいかないことや理想との違いを具体的に考えさせる。

○出された意見を分かりやすく整理・分類することができるように、付箋紙やワークシートを活用しながら検討させる。

課題を明確にするために
問題を全体で共有させる

○個人で考えた「理想の自分」の姿を、グループや全体で共有し検討することができるように、付箋紙やホワイトボードを活用する。

○生徒の意見やつぶやきをまとめた文章で学習課題を立てることができるよう、発問を工夫する。

本題材への意欲をもたせる
ために、振り返りをさせる

○本題材の学習を通して、どのようなことを学びたいのかを主体的に考えさせる。

指導例：『衣生活と自立』（第1学年 第7時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：「衣服の手入れ」についてです。

T：「手入れ」に関して、みんなが知らないこと・できないことは何でしたか？

S：汚れの落とし方、洗濯の仕方、アイロンのかけ方やたたみ方です。

S：取扱表示を確認すれば、繊維の種類や手入れの仕方は分かります。

T：身近な衣服を快適に着続けるための手入れの仕方について学習しよう。

めあて 身近な既製服の特徴を調べて、手入れの仕方を知ろう。

2 身近な既製服の特徴に応じた手入れの仕方を検討する。

○グループごとに異なる既製服を用いて、布の特性について調べる。

S：綿100%のTシャツは、やわらかい手触り。

吸湿性もあるから、汗を吸うのかな。

S：ポリエステルでできているジャージは、さらっとした手触りです。



○衣服に付きやすい汚れの種類や特徴について調べ、布の状態に合った手入れを検討する。

S：首回りとか脇は汗がすごいです。袖や背中が泥が付いていて、洗濯機で洗ってもなかなか落ちません。

3 一人一人が気付いたことをまとめる。

○気付いたことをワークシートにまとめる。

S：ジャージは、乾きが速い特徴をもつポリエステルでできていると知りました。雨で濡れた時などは実感します。

S：汗や泥汚れがついた服は、洗濯機に入れる前に手洗いをしないと母から言われます。

4 全体で共有し、まとめる。

○分かったことや気付いたことを発表し、要点を整理しながらまとめる。

S：体操着はポリエステルと綿でできています。汗や皮脂の汚れが付きやすいのは脇や首回り、湯を使ってもみ洗いをすると汚れが落ちやすいです。

S：綿でできているTシャツとポリエステルと綿の混紡のTシャツは、手触りだけでなく、手入れの仕方や乾く速さも違ってきます。綿はしわになりやすいので、仕上げにアイロンをかけるとよいと思います。

5 本時の振り返りをする。

○本時の学習で解決できた課題について、振り返りシートに記入する。

S：いつも着ている部活動のTシャツはポリエステルでできていました。布の特徴に合った手入れを行って、長くきれいに着ていきたいです。

S：綿でできた靴下の汚れは、洗濯機に入れる前にもみ洗いをします。自分の靴下は洗濯機で洗った後も汚れが落ちていないことがあるので、自分でもみ洗いをして、もっと清潔な状態にしたいと思いました。

○学習計画表を確認し、次時は洗濯機を用いた洗濯について学習することを

知る。

指導のポイント

学習計画を基にめあてを設定させる

○既習事項である「既製服の表示」を想起させ、身近にある繊維について考えさせることで、本時の課題とその解決方法について確認させる。

実感を伴う理解のために実践的・体験的な活動をさせる

○それぞれの布の特性や違いについて分かりやすく整理し比較することができるよう、ワークシートを工夫する。見た目や手触りや厚みなど、実際に見たり触れたりして気付くことにも注目させる。

活動を通して気付いたことを自分の言葉で表現させる

○言葉やイラストなどを用いて自由な表現でまとめさせ、気付いたことを記入することができるようなワークシートを工夫する。

課題の解決につなげるために必要な知識をまとめさせる

○一人一人が気付いたことについて全体で話し合わせ、課題解決のために必要な知識を一般化してまとめることで、日常生活でも活用できるように気付かせる。

学びで得た知識を生かすために振り返りをさせる

○本時の学習と自分の生活との関わりに気付かせ、快適な衣生活のために自分ができることを考えさせる。

指導例：『衣生活と自立』（第1学年 第9時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：これまでの学習を生かして実践計画を立てます。

S：個性に合った着方や、衣服の手入れについて学習したから、それを生かした計画を立てれば良いと思います。

めあて 学習したことを活用して、家庭での実践計画を立てよう。

2 課題解決に向けた実践計画を作成する。

○自分や家族の衣生活を改善するための実践を具体的に考え、自分だけの力で実践することができる計画を工夫する。

T：1時間目に「自分ができないこと・知らないこと」を検討したワークシートや、これまで学習したノートなどを見直してみよう。

S：自分の靴下は家族が洗濯機で洗っている。手入れの仕方を学習したので、お湯を使って手洗いしてから洗濯機で洗う計画を立てます。

S：「正しいアイロンがけができる自分」が理想だったので、アイロンかけの実践計画を立てます。

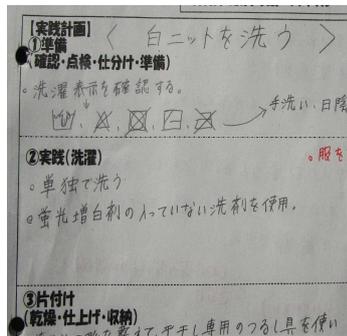
3 実践計画について検討する。

○自分で立てた実践計画についてグループごとに発表し合い、実践計画の修正をする。

T：友達の実践に自分の知識や経験からアドバイスをしよう。アドバイスをを受けて修正を加えた箇所は赤ペンで記入しよう。

S：お風呂に入った時にお湯を使って靴下を洗うと、エコになります。

S：クローゼットに衣服をしまうときは、立ててしまうと取り出しやすいです。



<実践計画表>

4 実践計画を見直す。

○これまでに学習した知識及び技能を活用した実践計画になっているかを確認する。

S：手入れの学習で学んだから、取扱表示の情報をよく確認して洗濯をします。

S：整理整頓をします。もう着ない服は捨てていたけれど、再利用を考えたいです。



5 本時の振り返りをする。

○実践計画で頑張りたいことを発表する。

S：家族全員の洗濯物を収納しやすいようにきれいにたたんで、みんなに喜んでもらいたいです。シワがつかないように丁寧にします。

S：部活動で着た服は汗や泥汚れがついているから、お湯で手洗いしてから洗濯機に入れます。お風呂に入ったときに必ず洗濯してみたいです。

○完成した実践計画を用いて、次時までに家庭での実践を行うことを確認する。次時は実践の報告会と題材のまとめを行うことを知る。

指導のポイント

学習計画を基にめあてを設定させる

○習得した知識及び技能を活用して実践計画を立てることを意識できるように、前時までの学習を想起させる。

学びを活用させるためにこれまでの学習を振り返らせる

○学習で得た知識及び技能を活用した実践計画を立てることができるように、これまでの学習で使用したノートやワークシートを見直させる。

よりよい解決方法に向けて実践計画を検討させる

○参考になるアドバイスは発表させ、よりよい解決方法を共有することができるようにする。

よりよい実践計画のために計画内容を再検討させる

○友達のアドバイスを受けたり振り返りワークシートを見直したりして計画を再検討させ、考えを深められるようにする。

実践への意欲をもたせるために振り返りをさせる

○家庭での実践を行うことで、自分や家族の衣生活がどのように改善されるかをイメージさせ、実践への意欲を高める。

指導例：『衣生活と自立』（第1学年 第10時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：家庭での実践の報告会と、これまでの学習の振り返りをします。

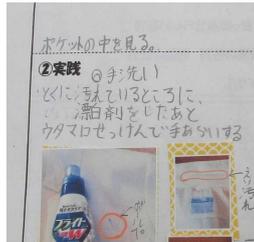
めあて 自立した衣生活を送るために、これから実践できることは何だろう。

2 家庭で実践した結果を評価する。

○グループごとに家庭実践の報告会を行う。結果を振り返り、学習したことを活用できたかなどについて自己評価をする。

S：取扱表示を確認し、洗濯の仕方や洗剤の種類を調べてから洗濯をしました。

S：授業で教えてもらったので、初めて「あて布」を使ってアイロンをかけました。しわがとれてきれいになりました。



<実践の例>

3 報告会の様子を発表し合い、改善策や新たな課題について検討する。

○もっと改善できること、更に知りたいことなどについて、意見交換を行う。

S：友達は、風呂の残り湯を使用したことで節水できていました。自分もやってみたいです。

S：たたみ方だけでなく、取り出しやすい収納の仕方にも気を付けました。

S：自分は室内干しをしたけれど、乾くのに時間がかかってしまいました。もっと速く乾けばいいなと思いました。

S：洗濯物に扇風機の風を当てると、速く乾きます。

4 題材を貫く課題についての振り返りをする。

○題材を通して自分たちが身に付けることができた知識及び技能について振り返り、解決ができたか確認する。

T：これまでどんな学習をしてきたか、何を学んできたか振り返りシートを見直してみましょう。

S：学習を始める前は、衣生活について自分でできることがあまりなかったけれど、洗濯の仕方やTPOに合った衣服の選択など、自分でできることが増えました。

S：繊維の特徴や取扱表示の意味が分かるようになりました。

5 本時の振り返りをする。

○題材を通した振り返りをして、これからの衣生活で自分が生かしたいことや実践したい行動について考える。

T：衣生活の学習を始める前の自分に、「今の自分はこんなことができる・分かるようになった」と伝えてあげましょう。

S：自分の服を自分で選ぶ方法を知りたいと考えていました。これからは色やデザインだけではなく、繊維の特徴や取扱表示も確認をして自分に合った服を選びたいです。



指導のポイント

学習計画を基にめあてを設定させる

○毎時間の活動内容を記録した振り返りシートやワークシートなどから、これまでの学習を想起させ、学習によって身に付いた知識及び技能について確認させる。

新たな課題に向かわせるために評価・意見交換をさせる

○既習のワークシートや付箋などを活用し、できるようになったこと、改善策、新たな課題などについて気付くことができるようにする。

学びや変容を自覚させるために課題解決ができたか確認させる

○振り返りシートを確認させ、身に付いた知識及び技能を実感することができるようにする。

今後の生活に生かすために題材を通した振り返りをさせる

○「つかむ」過程で使用したワークシートを用いて、衣生活の学習を始める以前の自分が「できない・知らない」と感じていたことを振り返らせ、学習後の自分と比較させることで、できるようになったこと、分かったことを考えることができるようにする。
○学習で身に付けた力を、今後の生活にどうやって生かしていきたいかを具体的に考え表現できるよう、発問やワークシートを工夫する。

家庭科学習指導案

平成30年10月～12月 第1学年 指導者 蓼沼 佐弥香

I 題材名 「衣生活と自立」

II 学習指導要領上の位置付け

B 衣食住の生活

(4) 衣服の選択と手入れ

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。

(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。

イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。

III 目標

快適な衣生活について考え、衣服の選択や手入れなど実践的・体験的な活動を通して、衣服の選択、着用及び手入れに関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、衣服の計画的な活用について工夫し、自立した衣生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／10）

1 ねらい 衣生活を振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。（8分）〈全体〉</p> <p>○事前に行った「自立した衣生活」についてのアンケート結果を提示したり、日常の衣生活の様子を振り返らせたりすることで、本時の学習への興味をもたせる。</p> <p>めあて 自分や家族の衣生活について考え、学習課題を立てよう。</p>			
<p>2 日常生活の中から、問題を見いだす。（17分）〈個人・グループ〉</p> <p>○衣生活に関わる活動のキーワード「計画」「入手」「着用」「手入れ」「再利用・処分」を示し、教科書の図を用いて衣生活の活動サイクルについて確認をする。</p> <p>○今の自分が知らないこと・行っていないこと・できないことなどを付箋紙に記入させ、少人数グループでワークシートにまとめさせることで、今の自分たちが抱えている問題について気付かせる。</p>			
<p>3 自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。（20分）</p> <p>○「学習を終えたとき、どんな自分になっていたいか」（理想の姿）について考えさせ、付箋紙に記入させる。〈個人〉</p> <p>○少人数グループごとに互いの「理想の姿」について意見交換をさせる。〈グループ〉</p> <p>○グループで共有された「理想の姿」を全体で検討し、自分たちが目指す「自立した衣生活」（題材を貫く課題）を具体化する。〈全体〉</p> <p>学習課題：計画的な購入・自分らしい快適な着用・正しい手入れ・再利用ができるようになるう。</p> <p>自立した衣生活を送るために必要な知識や技能について、自分や家族の生活を振り返って考え、記述をしたり発言をしたりしている。〈ワークシート・発言（1）〉</p>			
<p>4 本時の振り返りをする。（5分）</p> <p>○題材を貫く課題を確認し、次時は学習計画を立てることを伝える。</p> <p>☆自分ができないことや知らないことがたくさんあった。親が選んで購入した衣服を着ているが、自分に似合う服を自分で選んで着る方法を知りたい。</p> <p>☆衣服の正しい手入れの方法や再利用の仕方などを知ることができそうだ。頑張りたい。</p>			

V 本時の展開（7／10）

- ねらい 特徴の異なる既製服について手入れの方法を検討する活動を通して、身近な繊維の種類と手入れの方法や手順などについて理解できるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分）〈全体〉	○前時までに学習した、既製服に付けられている様々な表示について確認をさせる。 ○気に入った服を長く着るために、自分たちが得たい知識や技能について考えさせる。 ○学習計画表における本時の位置付けを確認させる。		
めあて 身近な既製服の特徴を調べて、手入れの仕方を知ろう。			
2 身近な既製服の特徴に応じた手入れの仕方を検討する。（15分）〈グループ〉	○グループごとに異なる既製服を用いて、布の特徴について調べさせる。手触りや厚みなどにも注目するように伝える。 ○衣服に付きやすい汚れの種類や特徴について問い掛け、汚れの落とし方や干し方などについて検討させる。		
3 一人一人が気付いたことをまとめる。（7分）〈個人〉	○気付いたことを、言葉やイラストを用いて自分の言葉でまとめさせる。		
4 全体で共有し、まとめる。（10分）〈全体〉	○分かったことや気付いたことを発表させ、要点を整理しながら板書する。		
衣服の手入れの必要性や布の性質、汚れの種類とその手入れの方法について理解している。 〈ワークシート・発言（4）〉			
5 本時の振り返りをする。（8分）〈個人〉	○本時の学習で解決できた課題について、振り返りシートに記入させる。 ☆体操着はポリエステルと綿できていて、乾きやすい。汗や皮脂の汚れが付きやすいのは脇や首回りで、湯を使ってもみ洗いをすると汚れが落ちやすい。 ☆毛でできているセーターを洗濯するときは、中性洗剤を使用する。干すときは平干しをする。 ○学習計画を確認し、次時は洗濯機を用いた洗濯について学習することを知らせる。		

V 本時の展開 (9/10)

- ねらい これまでの学習で得た知識や技能を活用し、家庭での実践計画を立てる活動を通して、自分や家族の衣生活の課題を解決するために工夫することができるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。(10分) 〈全体〉	○前時までに学習した内容を振り返らせる。 ○学習計画における本時の位置付けを確認させる。		
めあて 学習したことを活用して、家庭での実践計画を立てよう。			
2 課題解決に向けた実践計画を作成する。(15分) 〈個人〉	○自分や家族の衣生活を改善するための実践を具体的に考え、自分の力で実践することができる計画を工夫させる。 ○これまでの学習で使用したノートやワークシートを見直させ、学習で得た知識や技能を活用した実践計画を立てさせる。		
3 実践計画について検討する。(15分) 〈グループ〉	○自分で立てた実践計画について発表し合い、友達の実践から参考になることを追加したり友達からアドバイスをもらったりして、実践計画の修正をさせる。 ○修正を加えた部分は、赤ペンを用いて記入させる。		
4 実践計画を見直す。(5分) 〈個人〉	○これまで学習した知識や技能を活用した実践計画になっているかを確認させる。 ○家庭実践を行うことで、自分や家族の衣生活がどのように改善されるかイメージさせ、実践への意欲を高めさせる。		
これまでの学習で得た知識や技能を活用し、自立した衣生活を送るために家庭での実践の計画を工夫して立てている。 〈ワークシート・観察(2)〉			
5 本時の振り返りをする。(5分) 〈個人〉	○実践計画で頑張りたいことを発表させる。 ☆部活動で着た服は汗や泥汚れがついている。お湯で手洗いしてから洗濯機に入れよう。 ☆仕事や部活動で忙しい家族のために、できるだけ毎日実践してみたい。 ○完成した実践計画を用いて、次時までに家庭での実践を行ってこよう、次時は実践の報告会と題材のまとめを行うことを確認する。		

V 本時の展開（10／10）

- ねらい 家庭での実践について評価や改善することを通して、自分で快適な衣生活を送れるようになるための新たな課題を見付け、実践につなげることができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（5分） 〈全体〉			
○家庭での実践の報告会を行い、これから自分たちがどのような衣生活を送っていきたいかについて話し合うことを伝える。			
○学習計画表における本時の位置付けを確認させる。			
めあて 自立した衣生活を送るために、これから実践できることは何だろう。			
2 家庭で実践をした結果を評価する（10分） 〈個人〉			
○家庭での実践の結果を振り返り、学習したことを活用できたか、衣生活の改善が見られたかなどについて自己評価をさせる。また、自分ができるようになったことや実践によって分かったことなどを確認し合う。			
3 結果を発表し、改善策を検討する。（15分） 〈グループ〉			
○グループごとに実践についての相互評価を行い、改善策などについて検討させる。			
4 題材を貫く課題についての振り返りをする。（10分） 〈グループ〉			
○「つかむ」学習で使用したワークシートを用い、題材を通して自分たちが身に付けることができた知識や技能について振り返らせ、解決ができたか確認させる。			
これまでの学習活動を振り返り、自立した衣生活を送ることができるような手段を具体的に記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言（1）>			
5 振り返りをする。（10分） 〈個人〉			
○これからの衣生活で、自分が生かしたいことや実践したい行動について考えさせる。			
☆取扱表示の意味を知ったから、自分で洗濯をするときは確認する。気に入った衣服が長持ちするようにしたい。			
☆TPOに合った服を考えるようになったので、自分らしい既製服を自分で選んでみたい。			
☆学習をして自分にできることが増えた。服にしみがついたら自分でしみ抜きをしたい。			

指導計画 技術・家庭科（家庭分野） 第1学年 題材名「衣生活と自立」（全10時間計画）

目標	快適な衣生活について考え、衣服の選択や手入れなど実践的・体験的な活動を通して、衣服の選択、着用及び手入れに関する知識及び技能を身に付けさせるとともに、衣服の計画的な活用について工夫し、自立した衣生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。			
評価規準	(1) 自分や家族の衣生活に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。 (2) 自分や家族がよりよい衣生活を送る方法について考え、工夫している。 (3) 自分や家族の衣生活について、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れをしている。 (4) 自分や家族がよりよい衣生活を送るための基本的な知識を習得している。			
過程	時間	○ねらい 〇めあて	☆振り返り（意識）	◇評価項目 〈方法（観点）〉
つかむ	1	○衣生活を振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。 自分や家族の衣生活について考え、学習課題を立てよう。 計画的な購入・自分らしい快適な着用・正しい手入れ・再利用ができるようになるよう。	☆自立した衣生活を送るために、衣服の購入や手入れの方法を学びたい。	◇自立した衣生活を送るために必要な知識や技能について、自分や家族の生活を振り返って考え、記述をしたり発言をしたりしている。〈ワークシート・発言（1）〉
	1	○学習課題を基に、学習計画を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。 学習課題を基に、学習計画を立てよう。	☆自分たちで考えた学習計画を基に、「自分でできるようになる」ための学習をしよう。	◇自立した衣生活を目指して学習計画を立てることができる。〈ワークシート・発言（1）〉
追究する	2	○具体的な生活場面を想定した衣服について話し合う活動を通して、時・場所・場合に応じた衣服の着用について気付けるようにする。また、個性を生かした着方の工夫を考えられるようにする。 ○浴衣を用いた着付け体験を通して、洋服と比較をしながら和服の特徴について理解できるようにする。 TPOに応じた着用について知ろう。	☆衣服には、場所や目的などによって着方やきまりがあることが分かった。 ☆TPOに合った自分らしい着方を工夫したい。 ☆和服の特徴が分かった。地域の祭りや結婚式など、機会があれば、和服を着てみたい。	◇衣服と社会生活との関わりを考えながら、個性を生かした着用について工夫している。 ◇社会生活との関連を踏まえた上で、目的に応じた着用や個性を生かした着用について理解している。〈ワークシート・発言（4）（2）〉
	1	○衣服の過不足や処分について考える活動を通して、基本的な衣服計画の流れについてまとめ、資源や環境の視点から衣服の計画的な活用の必要性について理解できるようにする。 衣服の計画的な活用について知ろう。	☆無駄のない購入のために、衣服計画を立てることが大切なのだ。	◇健康・快適だけでなく、資源や環境への配慮も考えた衣服計画につながる記述や発言をしている。 ◇衣服の計画的な活用の必要性を理解している。〈ワークシート・観察（4）〉
	1	○既製服を購入する際に必要な情報についてまとめる活動を通して、組成表示・取扱表示・サイズ表示の意味を理解できるようにする。 既製服を選ぶポイントについて知ろう。	☆既製服を選ぶ時は、組成表示やサイズなどの情報を知ることが大切だ。 ☆色々な情報を比較・検討して、衣服を選べるようにしたい。	◇既製服を適切に選ぶ際のポイントを理解している。〈ワークシート・発言（4）〉
	2	○特徴の異なる既製服について手入れの方法を検討する活動を通して、身近な繊維の種類と手入れの方法や手順などについて理解できるようにする。 身近な既製服の特徴を調べて、手入れの仕方を知ろう。	☆体操着はポリエステルと綿できていて、乾きやすいという性質がある。 ☆しわができないように干してたたむことができた。 ☆繊維によりアイロンの温度を変える必要があることが分かった。	◇衣服の手入れについて、その必要性和適切な方法や手順を理解している。 ◇繊維や布の状態に合った方法で日常着の手入れをすることができる。〈ワークシート・観察・発言（3）（4）〉
	1	○これまでの学習で得た知識や技能を活用し、家庭での実践計画を立てる活動を通して、自分や家族の衣生活の課題を解決するために工夫することができるようにする。 学習したことを活用して、家庭での実践計画を立てよう。	☆学習して知ったことを生かした計画を工夫して立てることができた。 ☆仕事や部活動で忙しい家族のために、できるだけ毎日実践してみたい。	◇これまでの学習で得た知識や技能を活用し、自立した衣生活を送るために家庭での実践の計画を工夫して立てている。〈ワークシート・観察（2）〉
家庭での実践				
まとめる	1	○家庭での実践について評価や改善することを通して、自分で快適な衣生活を送れるようになるための新たな課題を見付け、実践につなげることができるようにする。 自立した衣生活を送るために、これから実践できることは何だろう。	☆報告会で友達の実践を聞いて、自分にもできそうなことがあった。 ☆衣服の手入れができるようになった。 ☆場に応じた着用を心掛け、正しい手入れをして長く着られるようにしたい。	◇これまでの学習活動を振り返り、自立した衣生活を送ることができるような手段を具体的に記述したり、発言したりしている。〈ワークシート・発言（1）〉